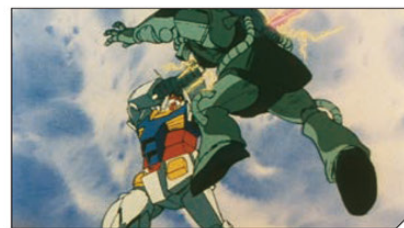


『宇宙世紀年表』『閃光のハサウェイ』を内包する宇宙世紀作品

U.C.0079 P.18

一年戦争

『機動戦士ガンダム』(1979/TV)
『機動戦士ガンダム 第08MS小队』(1996/OVA)
『機動戦士ガンダム ポケットの中の戦争』(1989/OVA) など



U.C.0083

デラーズ紛争

『機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』(1991/OVA)



U.C.0087 P.20

グリプス戦役

『機動戦士Zガンダム』(1985/TV)



U.C.0088 P.22

第一次ネオ・ジオン戦争

『機動戦士ガンダムZZ』(1986/TV)



U.C.0093 P.24

第二次ネオ・ジオン戦争 (シャアの反乱)

『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』(1988/MOVIE)



U.C.0096 P.26

ラプラス事変

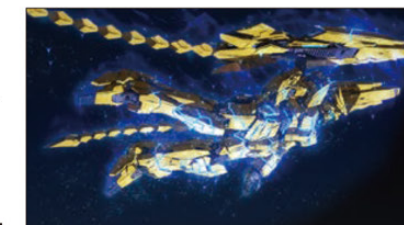
『機動戦士ガンダムUC』(2010/OVA)



U.C.0097 P.26

不死鳥狩り

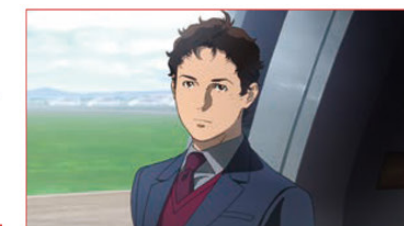
『機動戦士ガンダムNT』(2018/MOVIE)



U.C.0105

マフティー動乱

『機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ』(2021/MOVIE)



U.C.0123

コスモ・バビロニア建国戦争

『機動戦士ガンダムF91』(1991/MOVIE)



U.C.0153

ザンスカール戦争

『機動戦士Vガンダム』(1993/TV)



history

グリプス戦役ざっくり年表

0083.12.04	ジャミトフ・ハイマンの提唱により「ティターンズ」結成	0087.10.15	ティターンズ、アクシズとの連合を結成
0084.09.21	シャア・アズナブルが地球圏に帰還。クワトロ・バジーナを名乗り、エゥーゴに参加	0087.11.02	エゥーゴとカラバ、地球連邦軍のキリマンジャロ基地を襲撃
0085.07.31	ティターンズ、サイド1の30バンチコロニーを毒ガスで攻撃する「30バンチ事件」を遂行	0087.11.16	エゥーゴがダカールの連邦議会を占拠。ティターンズの実態を明らかにする演説を行う
▼ 以下、「Z」の本編スタート ▼			
0087.03.02	エゥーゴ、ティターンズの試作MS、ガンダムMk-IIを強奪	0087.12.14	ティターンズ、サイド2の21バンチを毒ガス攻撃
0087.05.11	エゥーゴ、地球連邦軍のジャブロー基地を攻撃。支援組織カラバと合流	0088.01.18	アクシズ、ゼダンの門を破壊し、グリプス2を占拠。
0087.08.10	ティターンズ、「アポロ作戦」発動。フォン・ブラウン市を制圧	0088.01.25	アクシズとティターンズが会談。交渉は決裂し、シロクがティターンズの指導者ジャミトフ総帥を暗殺。以後、ティターンズの全権をシロクが掌握
0087.08.17	エゥーゴの指導者であるブレックス・フォーラ准将が暗殺される	0088.02.02	エゥーゴ、「メールシュトローム作戦」を発動。グリプス2を占拠
0087.10.12	ハマーン・カーン率いるアクシズ、地球圏に帰還	0088.02.20	エゥーゴ、ティターンズ、アクシズが三つ巴の艦隊戦に突入
		0088.02.22	エゥーゴ、コロニー・レーザーでティターンズの艦隊を壊滅させ、グリプス戦役が終結

該当作品紹介

グリプス戦役を描いた作品は、『機動戦士Zガンダム』と、その新訳版である劇場版3部作『機動戦士Zガンダム A New Translation』の2作品。ただ、ティターンズ結成前後を描いた『機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』には、バスク・オムなど関連人物も登場する。直後に勃発する「第一次ネオ・ジオン戦争」は、続編である『機動戦士ガンダムZZ』で描かれた。



【グリプス戦役】U.C.0087～0088まで続けられた大規模な戦乱。当初はティターンズとエゥーゴという地球連邦軍組織の内部対立としてスタートした。その後、ティターンズを最終的に掌握することになる木星船団のパプテマス・シロク、ジオン再興を窺うハマーン・カーンのアクシズなどが参戦。コロニー・レーザーや毒ガスを用いた無差別攻撃、アクシズの地球への落下など、一年戦争に劣らぬ大きな犠牲と損害を世界にもたらした。

【ティターンズ】ジオン残党勢力の討伐を目的に結成された連邦軍内の軍閥組織。指導者はジャミトフ・ハイマン。毒ガス攻撃、コロニー落とし、コロニー・レーザーの使用など目的のためには手段をいとわず、多数の民間人が彼らの襲撃を受けて命を落とす結果となった。

【エゥーゴ】エゥーゴ（A.E.U.G.=反地球連邦組織）は、ブレックス・フォーラを指導者とする連邦軍内組織。スペースノイド（宇宙居住者）が中心であり、アースノイド（地球居住者）が中心のティターンズと対立していた。AE（アナハイム・エレクトロニクス社）や地上の組織カラバとも連携している。

【アクシズ】ザビ家によるジオン再興を目指していた勢力で、指導者はハマーン・カーン。グリプス戦役中盤～終盤にかけて戦乱に介入し、戦争のキャスティングボードを担うことになった。グリプス戦役終結後、アクシズはネオ・ジオンに改名する。

【一年戦争の当事者たち】アムロ・レイやシャア・アズナブル（クワトロ・バジーナ）など、一年戦争で活躍した兵士たちが、立場を変えてグリプス戦役に参加。一年戦争ではライバルとして何度も交戦したアムロとクワトロも、一時的であるが「反ティターンズ」で共闘した。

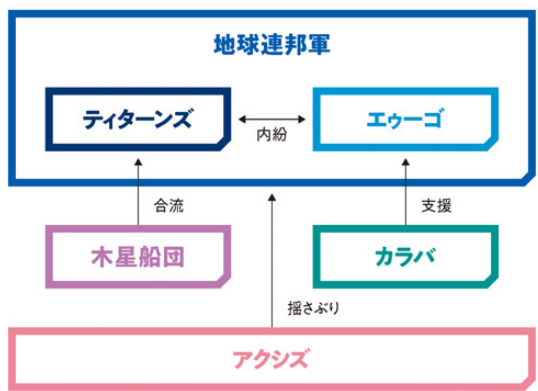
column

【ノア家の肖像2】エゥーゴに参加したブライト

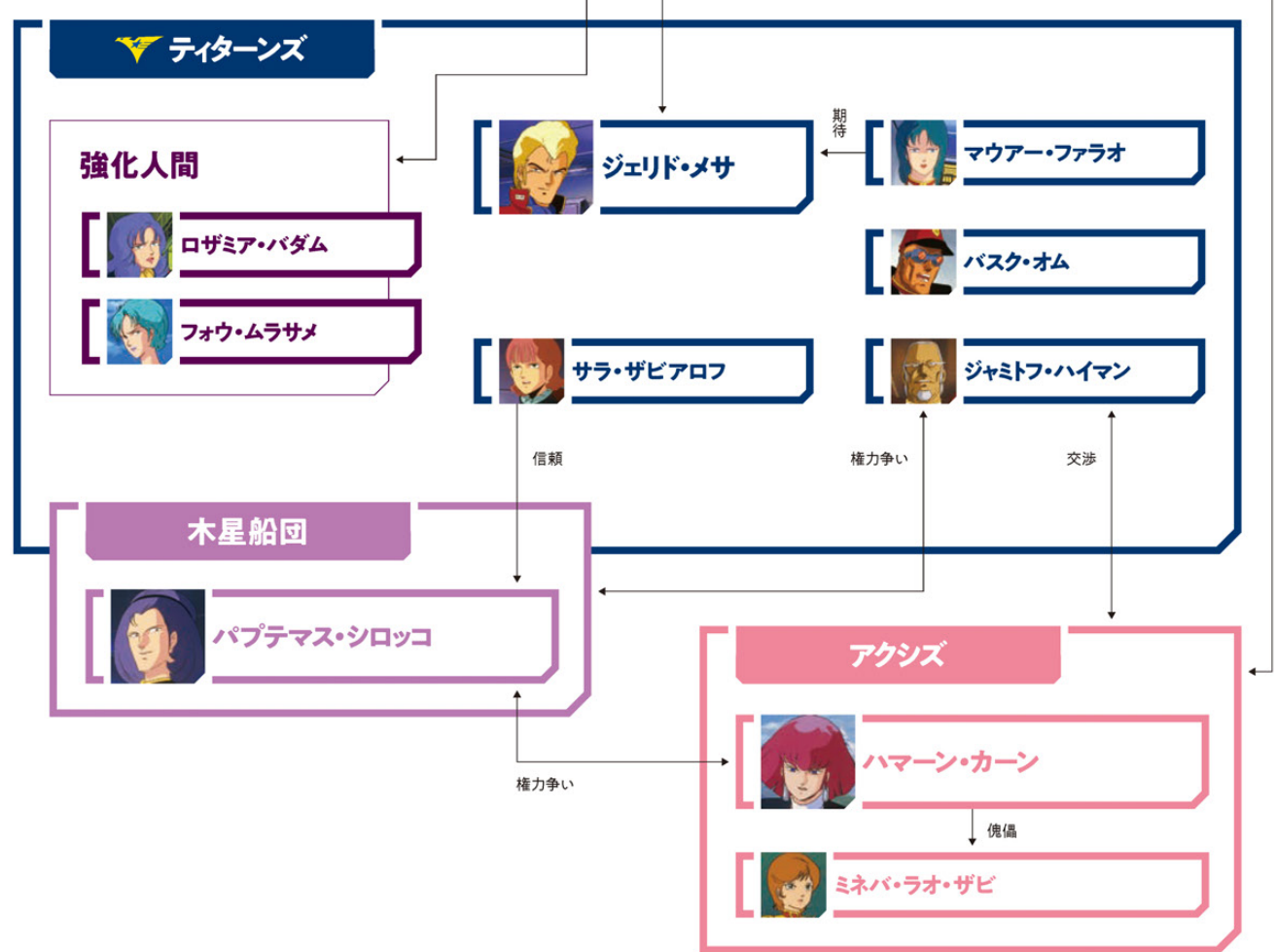
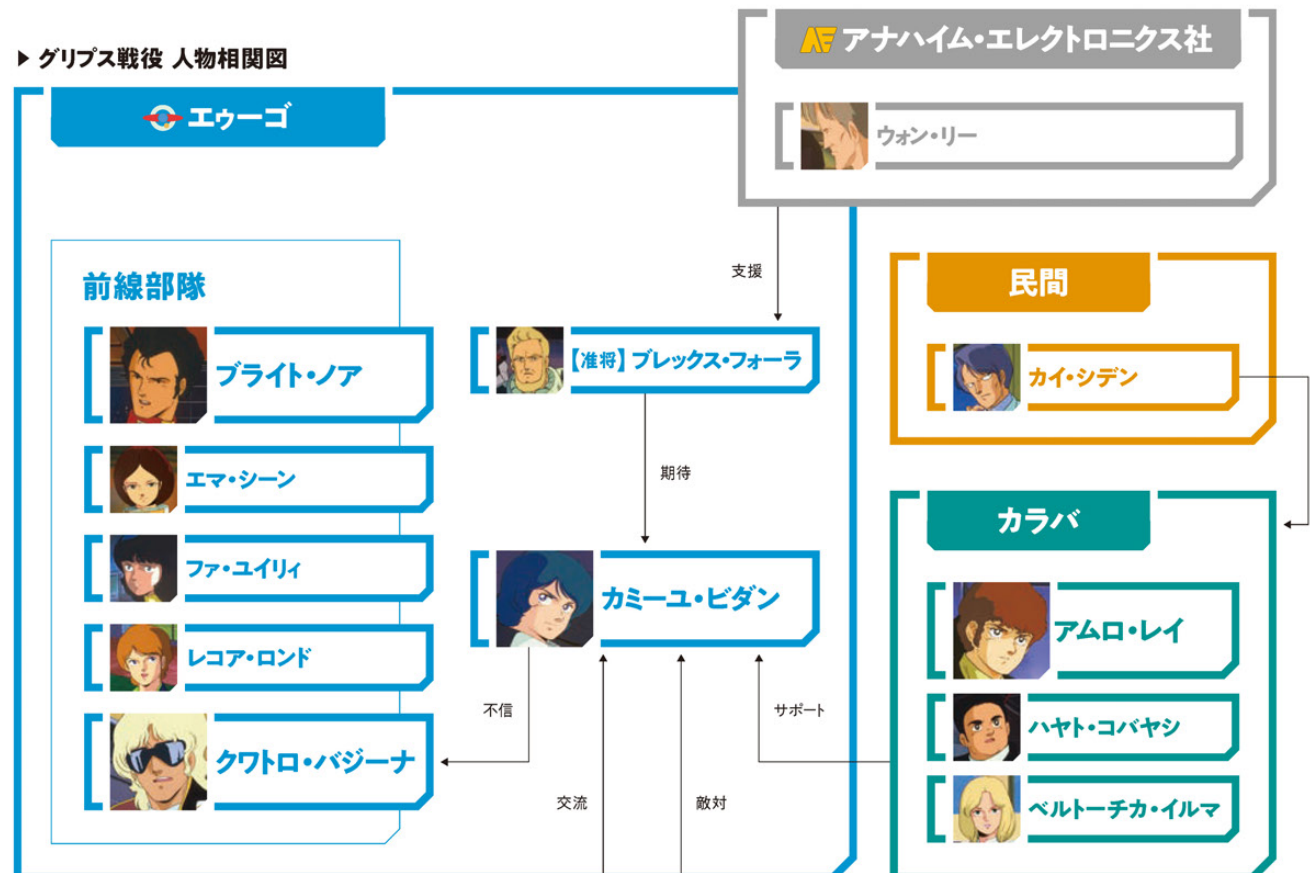
ブライトとミライは、私生活では長男ハサウェイ、長女チェミンというふたりの子を儲ける。一方、ブライトは軍人としては苦境に追いやられており、ホワイトベース隊で功績を挙げたにもかかわらず閑職に就いていた。特にティターンズからは危険分子として目を付けられており、それに反発する思いからエゥーゴに参加、アーガマの二代目艦長となる。ミライはすでに軍を離れており、グリプス戦役が勃発すると、子供たちとともにホンコンに逃れていた。彼女たちはより安全な場所を求めて宇宙に逃れようとしていたが、その直前にアムロと遭遇。元ホワイトベース隊のクルーとして、アムロやカラバのベルトーチカ・イルマに忠告を行っている。



勢力図



▶ グリプス戦役 人物相関図

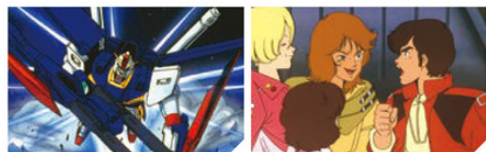


第一次ネオ・ジオン戦争ざっくり年表

0088.02.29	アクシズ、ジオン再興を宣言。各サイドに制圧部隊を派遣する	0088.11.07	ネェル・アーガマ、正式にネオ・ジオン討伐の任務を受け、サイド3へ
0088.03.11	アーガマ、シャングリラを出港	0088.11.14	地球連邦政府、ネオ・ジオンにサイド3を譲渡。引き換えに、ネオ・ジオンは地球より撤退
0088.03.25	アーガマ、ムーン・ムーンに寄港	0088.12.25	ネオ・ジオンでグレミー軍が反乱。アクシズを制圧
0088.06.06	ネオ・ジオン、先遣部隊が地球に降下	0089.01.04	ネェル・アーガマ、連邦軍とエウーゴの艦隊の支援を待たずに行動開始
0088.07.09	ネオ・ジオン、月面都市グラナダの宇宙港を爆破	0089.01.10	グレミー軍、ネオ・ジオン(ハマーン軍)と艦隊戦
0088.07.13	ネオ・ジオンのMS部隊が地球に降下	0089.01.14	ネェル・アーガマ、グレミー軍を当面の敵として参戦。グレミー軍は撤退するが、NT部隊を投入
0088.08.01	ネオ・ジオン本隊、地球進攻を開始。ダカールの連邦議会議堂を占拠	0089.01.17	ハマーン、ジュードとの一騎打ちに敗れ戦死。第一次ネオ・ジオン戦争終結
0088.08.02	ハマーン・カーン率いるアクシズ、地球圏に帰還	0089.03.15	木星エネルギー輸送再開。ジュードとルー、ジュビトリスIIで旅立つ
0088.08.31	ダカールにハマーンとミネバが入城		
0088.10.31	ネオ・ジオン、ダブリンに向けてコロニー落としを実行		

該当作品紹介

U.C.0088~0089に繰り広げられた第一次ネオ・ジオン戦争は『機動戦士ガンダムZZ』にて描写されている。前半はジュード・アースタラ少年少女を中心とした「ガンダムチーム」の成長にスポットが当てられており、シリアスな『Z』からは一転、コミカルな演出も見られる。後半からは徐々に濃厚な内容となり、ハマーン・カーンやグレミー・トトといったネオ・ジオン側の内乱も合わせて描かれた。



【第一次ネオ・ジオン戦争】U.C.0088~0089に勃発した大規模な戦乱。アクシズを率いるハマーン・カーンが、ネオ・ジオンの再興を宣言し、地球連邦に対して事実上の宣戦布告を行った。戦場が地球へと拡大していく中、ネオ・ジオン内ではグレミー・トトが力を持ち、クーデターを敢行。その内紛とエウーゴの介入もあって組織は弱体化し、戦争終結に繋がった。

【アーガマ/ネェル・アーガマ】グリプス戦役にも参加したエウーゴは、アーガマを中心に活動を継続。前大戦でダメージを負ったカミーユ・ビダンに代わってジュードらガンダムチームを加え、ネオ・ジオンと対峙した。アーガマではブライト・ノアが引き続き艦長を務めたが、新造艦ネェル・アーガマに移ってからは、ガンダムチームが主体となった。

【ガンダムチーム】ジュード・アースタラ、ピーチャ・オーレグ、モンド・アガケ、イーノ・アッパーブ、エル・ピアンノなどを中心としたMS部隊。彼らはZガンダムやZZガンダム、百式などを運用したため、「ガンダムチーム」と呼ばれた。

【ネオ・ジオン】ジオンの残党勢力の改称名。地球に残存する旧ジオン残党も参加した。ザビ家の末裔であるミネバ・ラオ・ザビをリーダーとするが、幼き彼女は単なる象徴であり、実質上は摂政であるハマーン・カーンが指導者を務める。のちにニュータイプ部隊を整備していたグレミー・トトが増長、組織は分裂する。

【エルビー・ブル/ブルーツ】グレミー軍では、サイコミュ搭載戦機を運用できる強化人間やクローン兵の整備に注力していた。エルビー・ブルのクローンであるブルーツもそうしたパイロットのひとりであり、ほかにも十数人のクローンが生み出され、そのひとりがマリィダ・クルス(ブルトゥエルブ)である。

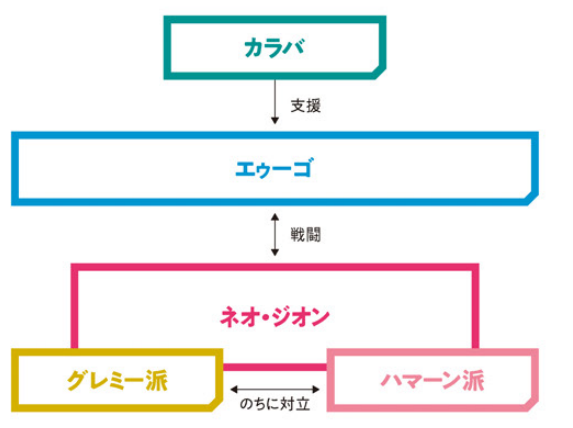
column

【ノア家の肖像3】困惑の表情を多く見せたブライト

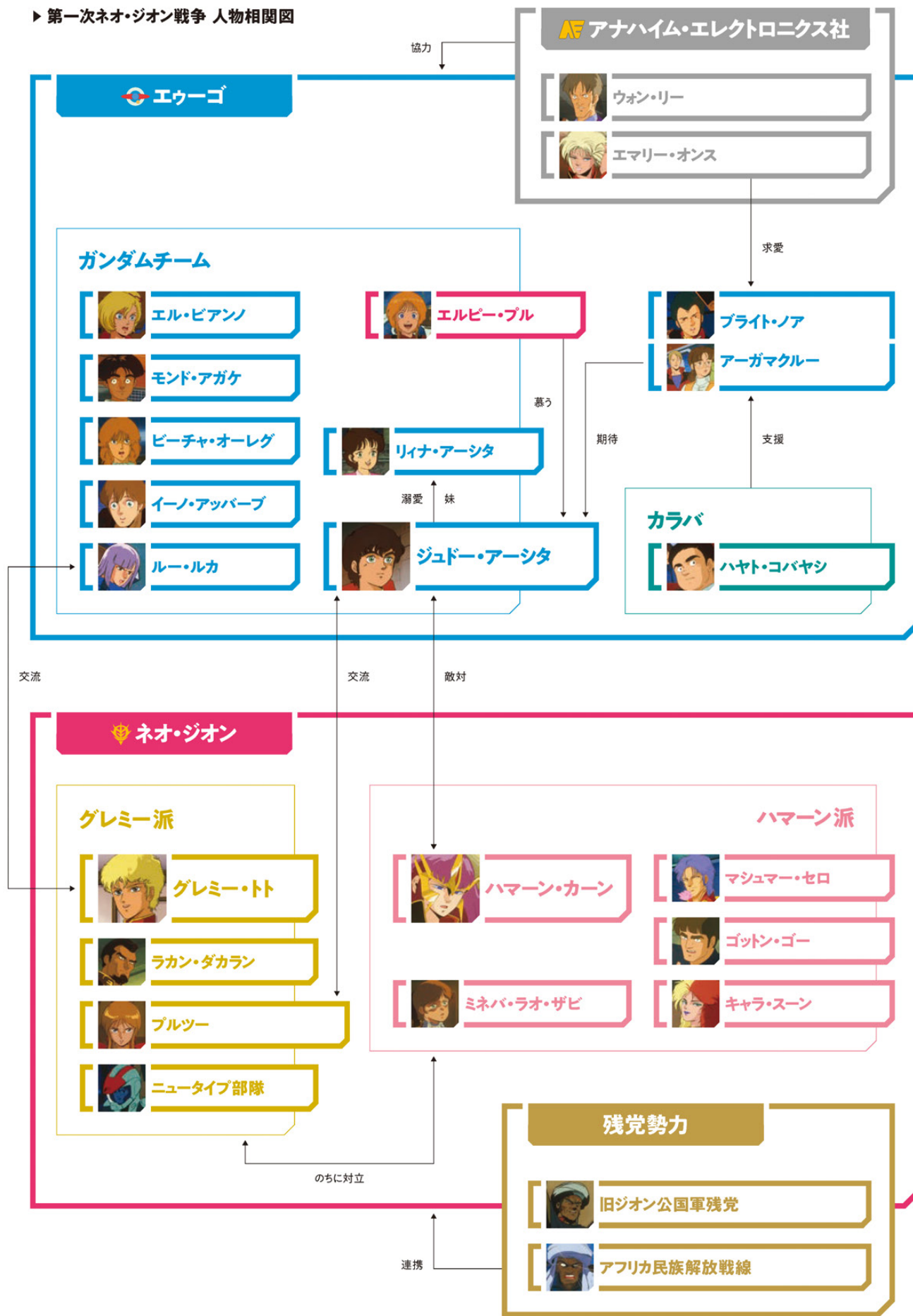
グリプス戦役後もブライトはエウーゴに残り、ハマーン・カーン率いるアクシズ(ネオ・ジオン)との第一次ネオ・ジオン戦争にそのまま突入する。ブライトは、サイド1でジュード・アースタラらに未来を感じ、アーガマを迎え入れた。だが、ジュードらの若く進めるエネルギーに対しては、アムロやカミーユ以上に苦悩させられることになる。戦争終盤になると、一時は艦長を務めたネェル・アーガマをガンダムチームに任せ、後方からの支援に徹している。その間、ミライや子供たちとは相変わらず離れ離れで寂しい日々を送っていたが、ドック艦ラビアンローズの艦長代理エマリー・オンスから激しい求愛を受けることになる。だが、ミライと子供たちへの愛情から理性を保ち、不倫関係とはならなかったようだ。



勢力図



▶ 第一次ネオ・ジオン戦争 人物相関図



第二次ネオ・ジオン戦争ざっくり年表

0090.03	地球連邦軍、反地球連邦政府活動の取り締まりを目的に外郭新興部隊「ロンド・ベル」設立	0093.03.04	ネオ・ジオン、5thルナを地球連邦軍本部が置かれていたラサに落とす。第二次ネオ・ジオン戦争開戦
0092.12.13	新生ネオ・ジオン、地球連邦軍に対し攻撃を示唆	0093.03.06	ネオ・ジオンと地球連邦政府、サイド1のロンデニオンで極秘裏に和平交渉
0092.12.22	ネオ・ジオン、スイート・ウォーターの占拠を宣言	0093.03.12	ネオ・ジオン艦隊、アクシズを奪還
0092.12.25	ロンド・ベル、対ネオ・ジオン戦に向けて軍備を増強		ネオ・ジオン、アクシズを地球に落下させる。だが、νガンダムが巨大な虹色の光と共にアクシズを押し返した「アクシズ・ショック」が発生
0093.02.27	ネオ・ジオン総帥シャア・アズナブル、事実上の宣戦布告		アクシズの地球落下は阻止され、第二次ネオ・ジオン戦争は終結。アムロ・レイとシャア・アズナブルは行方不明に
0093.03.03	ネオ・ジオン艦隊、スイート・ウォーターを発進		

該当作品紹介

U.C.0093に勃発した第二次ネオ・ジオン戦争は、完全オリジナルの映画『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』としてまとめられている。第一次ネオ・ジオン戦争（『ZZ』）では登場しなかったアムロとシャアに再びスポットを当てており、シャアを総帥とする新生ネオ・ジオンと、アムロ、ブライトらのロンド・ベルとの激突を描く。ブライトの息子ハサウェイもU.C.0087から成長した13歳の姿で登場する。



【第二次ネオ・ジオン戦争】U.C.0093に勃発した戦乱。新生ネオ・ジオンの総帥となったシャア・アズナブルが、腐敗した地球連邦政府に鉄槌を下すべく、「地球寒冷化作戦」を立案。5thルナやアクシズを地球に落とす大規模な作戦を実行に移した。アムロやブライトが参加する地球連邦軍の外郭新興部隊「ロンド・ベル」はこれに抵抗。地球に落下するアクシズ本体をアムロらのモビルスーツが押し返した「アクシズ・ショック」が発生し、最悪の事態は免れた。これにより戦乱は終結するが、シャアとアムロは行方不明となっている。

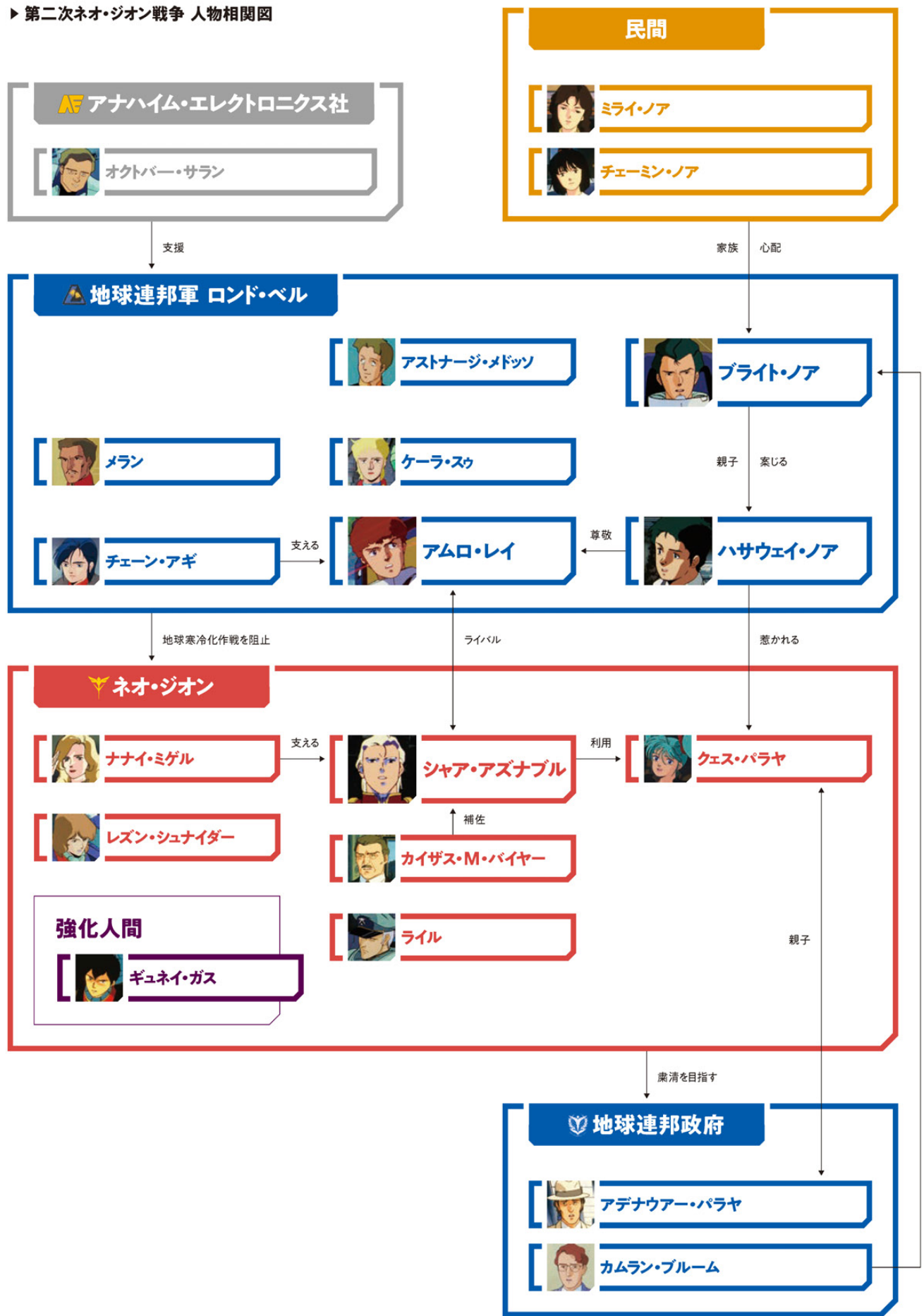
【ロンド・ベル】U.C.0090に設立された地球連邦軍の外郭新興部隊で、反連邦政府活動の管理、取り締まりを行った。ブライト・ノアが司令、アムロ・レイがモビルスーツパイロットを務める。サイド1にある「ロンデニオン」を拠点とし、ネオ・ジオンに対抗した。

【新生ネオ・ジオン】スペースノイドの自治権確立を掲げて誕生したシャア・アズナブルを総帥とする組織。ハマーン時代のネオ・ジオン勢力やコロニー国家の反乱分子が集結している。地球連邦政府の横暴に不満を抱いていたコロニー市民からも絶大な支持を得た。

【サイコフレーム搭載機】アナハイム・エレクトロニクス社が開発したネオ・ジオンのサザビー、ロンド・ベルのνガンダムは、どちらもサイコフレームを搭載したことで知られる。サイコフレームの搭載により、パイロットのニュータイプとしての能力をより活かすことができた。

【アクシズ・ショック】地球への落下コースを辿っていたアクシズを、アムロが搭乗するνガンダムを中心に、ロンド・ベルや一部ネオ・ジオンのモビルスーツが協力して押し返した奇跡の事象。その際、νガンダムからは虹色の光が放たれたと言われるが、その詳細は解明されていない。

▶ 第二次ネオ・ジオン戦争 人物相関図



column

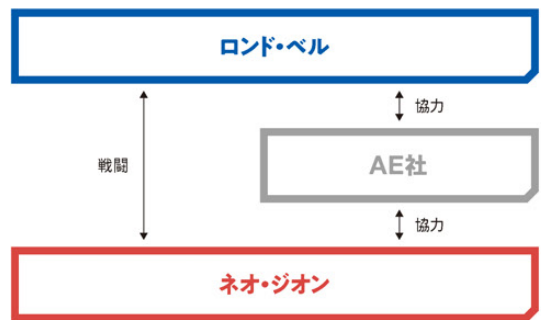
【ノア家の肖像4】シャアとアムロの決戦を間近で見たノア家の男たち

第一次ネオ・ジオン戦争を経たブライトは、シャアを総帥とするネオ・ジオンの動きをいち早く察知し、ロンド・ベルの司令に就任。アムロとは一年戦争以来（カラバでの一時的な合流を除き）、久々に行動を共にする。艦隊旗艦ラー・カイラムの艦長として見せた優れた指揮能力には、これまでの厳しい実戦で得た経験値が感じられた。

一方、ブライトの妻ミライは息子ハサウェイと娘チェミンを連れ、ブライトと合流すべく宇宙へと上がる予定であったが、連邦政府高官アデナウアー・バラヤの割り込みにより急遽断念。ハサウェイのみを送り出し、地球で事態を見守った。そのハサウェイは、父が指揮を執るラー・カイラムへ密航。軟禁状態にあったが、無断で戦場へと出撃してしまうこととなった。



勢力図



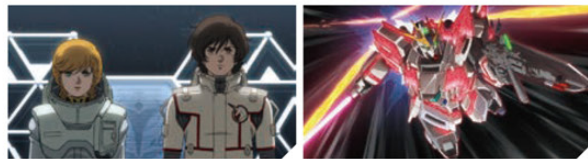
ラプラス事変 / 不死鳥狩りざっくり年表

0096.04.07	ネオ・ジオン残党軍「袖付き」のガンシエル隊と、ビスト財団が「ラプラスの箱」を巡って交渉。だが、交渉は決裂した上、介入した地球連邦軍部隊と「袖付き」による軍事衝突が発生。これを機に、後に言う「ラプラス事変」勃発
0096.04.12	鉱物資源衛星パラオで「袖付き」と連邦軍のネル・アーガマが戦闘
0096.04.17	ジオン残党軍、地球連邦政府の首都ダカールを襲撃
0096.05.01 (斎東部時間)	ジオン残党軍、地球連邦軍のトリントン基地を強襲
0096.05.02	ガンシエルとネル・アーガマが宇宙で接触 ネル・アーガマと「袖付き」、一時的に共同戦線を張るも、すぐに決裂
0096.05.03	インダストリアル7周辺宙域で「袖付き」とネル・アーガマ、連邦軍艦隊による大規模な軍事衝突が発生

0096.05.04	「袖付き」首魁フル・フロンタルの敗北により戦闘は終結 ミネバ・ラオ・ザビ、「ラプラスの箱」の正体を全世界に明かす演説「ラプラス宣言」を行う
0097	地球連邦軍所属艦ダマスカスのシェザール隊、ユニコーンガンダム3号機 フェネクスの捕獲を目指す「不死鳥狩り」作戦を開始 ルオ商会のミシェル・ルオ、ナラティブガンダムとそのパイロットとしてヨナ・バシュタをシェザール隊に送り込む シェザール隊とジオン共和国軍、学園都市コロニー「メーティス」内で交戦。IIネオ・ジオングが襲来してナラティブガンダムをコアとするも、フェネクスにより解除 サイド6のヘリウム3備蓄基地で地球連邦軍特別混成艦隊とジオン共和国軍が戦闘。ナラティブガンダム、IIネオ・ジオングを撃破するが、ヘリウム3のタンクが臨界爆発する危機が迫る。フェネクスから放たれた光がそれを制止し、その後、フェネクスは再び行方不明に
0100	ジオン共和国、自治権を放棄

該当作品紹介

U.C.0096に勃発した『ラプラス事変』は、OVA+イベント上映+劇場上映作品として制作された『機動戦士ガンダムUC』とその再編集版TVシリーズ『機動戦士ガンダムユニコーン RE:0096』にて描かれた。その一年後のU.C.0097に発生した『不死鳥狩り』は、『機動戦士ガンダムF91』以来のオリジナル映画となった『機動戦士ガンダムNT』でその結末まで示されている。また、『機動戦士ガンダム Twilight AXIS 赤き残影』では、『ラプラス事変』と『不死鳥狩り』の間に起きた出来事について触れられている。



【ラプラス事変】U.C.0001、地球連邦政府首相官邸（ラプラス）（宇宙ステーション）が、テロ行為によって爆破された事件。この際、ラプラスで発表される予定だったあるものがビスト財団初代当主サイアム・ビストによって確保され、『ラプラスの箱』として秘匿された。

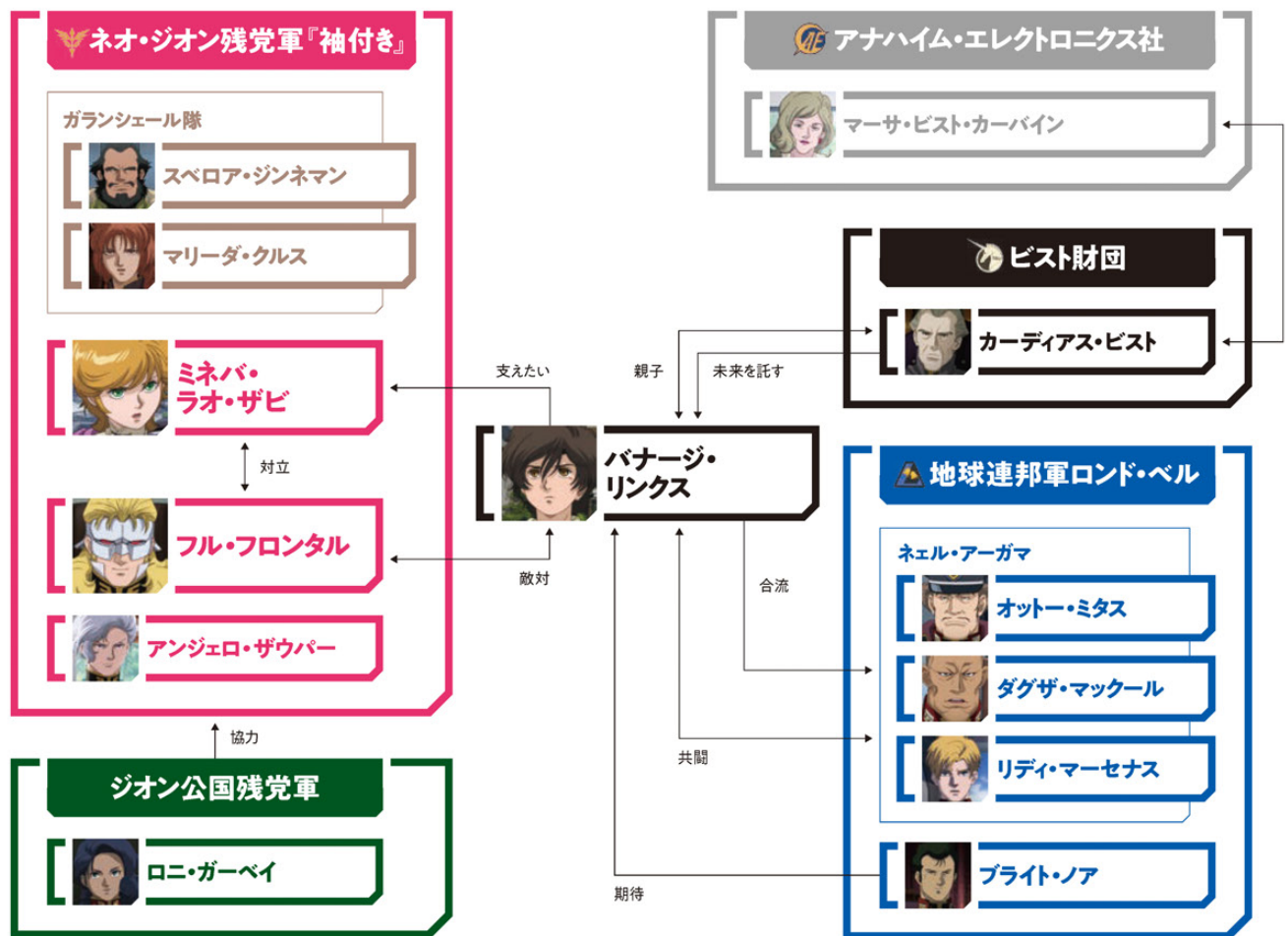
【ビスト財団】サイアム・ビストが立ち上げた財団法人で、表向きは美術品の保護を目的としている。だがサイアムが開放されれば地球連邦政府を転覆させるという『ラプラスの箱』を保持しており、アナハイム・エレクトロニクス社や地球連邦政府に対しても強い発言力を有した。

【ユニコーンガンダム】アナハイム・エレクトロニクス社が開発した試作モビルスーツ。ビスト財団に譲渡された1号機は、『箱』の在り処を記す鍵として運用された。3機が確認され、漆黒の2号機はバンシイ（バンシイ・ノルン）、ゴールドの3号機はフェネクスと呼ばれる。

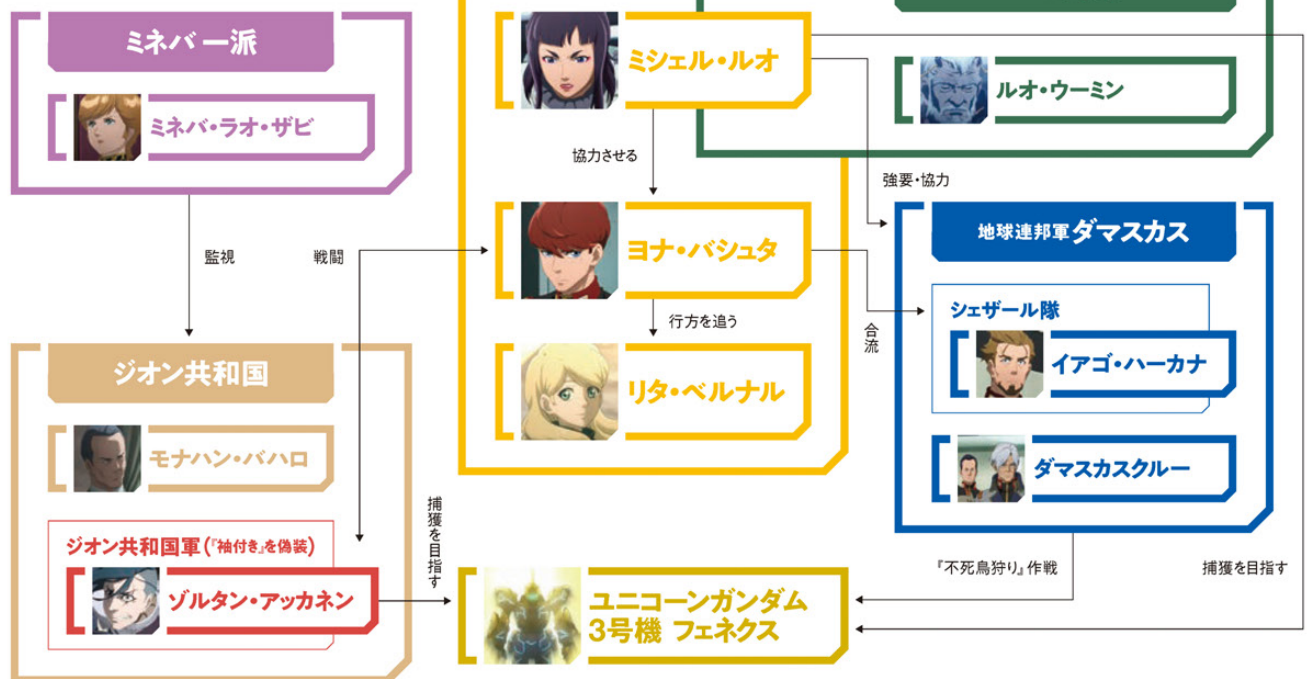
【フル・フロンタル】ネオ・ジオン残党軍「袖付き」の首魁。「シャアの再来」と呼ばれる人物で、彼と同じようにマスクを着用していた。『ラプラスの箱』を入手することで各サイドの連帯を強め、地球連邦政府を形骸化するサイド共栄圏の構築を目論んでいた。

【ルオ商会】ホンコンを本拠地とする大企業で、グリプス戦役時にはカラバを支援していた。グリプス戦役で戦闘の舞台となり大きな被害を受けたものの、その後も事業を継続。U.C.0097にはミシェル・ルオ主導により『不死鳥狩り』作戦に関与した。

▶ ラプラス事変 人物相関図



▶ 不死鳥狩り 人物相関図



column 【ノア家の肖像5】ラプラス事変に参加したブライト

アムロが行方不明になった第二次ネオ・ジオン戦争のあと、ブライト自身はロンド・ベルの司令として留任する。『ラプラス事変』の当初は現場から遠ざけられていたが、地球連邦政府移民問題評議会議長のローナン・マーセナスに請われ、ラー・カイラムの艦長として戦闘に介入する。その戦いの最中に出会ったバナー・リンクスにニュータイプとしての力を感じたブライトは、バナーの逃亡を手引き。「袖付き」のガンシエル隊への合流を促して宇宙へ向かわせ、ネル・アーガマとの共闘を実現させた。一方、第二次ネオ・ジオン戦争後のハサウェイは、地球連邦政府の植物監視官として地球に降りたとされる。



勢力図

